

石狩地区 新規就農者紹介



かれん農園 廣井 佳蓮 さん

廣井 佳蓮 さん（石狩市）

就農年：2021年

経営形態：施設栽培

作物：ミニトマト（30a）

労働力：本人のほかパート従業員（5～6人）

出荷先：JAさっぽろ

【活用した事業等】

- ・農林水産省『就農準備資金・経営開始資金』
- ・農林水産省『青年等就農資金』
- ・石狩市『新規就農者施設園芸普及事業補助金』

【就農して良かったこと・苦労したこと】

就農して良かった点は、自分が思い描いていた「自然に近い暮らし」ができています。全て自己責任になるという不安はありますが、自分が作ったものおいしいと自信につながりますし、それで収入を得られることにやりがいを感じています。

一方で、必要な時にうまく人手が集まらない点には苦労しました。常勤のパートスタッフを5～6人雇ったり、農繁期の夏にはデイワークをアプリで募ったりするのですが、この時期は他の農家もパートスタッフを募集するため、上手く人が集まらないという苦労があります。

また、大学の同級生の大半は親元就農や農業法人・農業関連企業への就職だったため、自分のように親が非農家で農家を始めるという人は珍しかったです。大学の就活支援センターでは「新規就農者の支援は難しい」と言われ、条件に合う研修の受入れ先が中々見つからないという就農時の苦労もありました。そんな中、石狩市農業総合支援センターが研修受入れ体制を整えてくれたことで就農が実現しました。

【就農のきっかけ】

小学校での農業体験や、ボーイスカウトでの自然体験教室等がきっかけで、農業に興味を持つようになりました。高校3年の進路を決める時期に、人生のどこかでは農業をやりたいと思ったこと、また、オフィスワークをする自分が想像できなかったことから農家になることを決意し、まずは知識をつけるため酪農学園大学への進学を決めました。元々自然に親しむことや食べることが好きで、自然に近い暮らしに憧れがあったことも影響していると思います。

【工夫している点】

午前中にパートスタッフ全員で収穫作業を集中して行い、暑くなる前に作業を終えるようにしています。これにより、子育て中の方や午前中のみ働きたいという方のニーズとうまくマッチしていると思います。

【サポート体制について】

研修受入れ先や近隣の先輩農家などから指導してもらったり、JAから紹介してもらったミニトマト部会で栽培技術の研修を受けたりしました。また、石狩市からはビニールハウス建設費用の半額補助(5棟)を受けました。



【指導に力を】

朝、パートスタッフ全員で集合し、作業内容の指示をします。その30分後に1度全員の作業状況を確認し、分からない人を置いていかないということを意識しながら指導しています。

【収穫前のミニトマト】

真っ赤になりすぎると本州に届く頃には熟しすぎてしまうので、早めに採ることを意識しています。



【今後の展望】

現在ハウス9棟を1人で管理しており、規模的にはこれが限界だと感じています。今後はパートスタッフの育成・確保に力を入れ、収穫量を安定させることが目標です。また、就農当初に立てた「50年農家を続ける!」という目標達成に向け頑張るとともに、新たに就農する方の見本となれるような農家を目指したいです。

【地域との関わり合いの重要性】

居住地区の町内会役員を務め、お祭りや新年会などに積極的に参加しています。また、市内に住む大学時代の馬術部の同期がきっかけで知り合った乗馬クラブさんから馬糞を堆肥として提供してもらい代わりにトマトを提供するという物々交換も行っています。

さらに、自分は狩猟免許も持っており、石狩猟友会の方々にもとてもお世話になっております。元々石狩市に鹿は生息していませんでしたが、近年、全道で鹿が増加し生息地が増えたため、石狩市にも生息するようになりました。その鹿を駆除するための有害駆除を石狩市から委託されており、自分は猟友会の先輩や山を所有している方から情報を貰い、猟に出ています。

他にも、現在福祉施設と連携しており、夏に草取りをしてもらっています。今後、溜まった鹿の角を提供して、就労継続支援B型事業所でお土産品を一緒に作ろうという話もしています。

【ハウスの外観】



【就農を目指している方へのアドバイス】

国の「経営開始資金」を頼りに経営を始めましたが、最初の3年間は非常に厳しかったです。資金不足のため人を雇えず、1人で営農をしながら夜勤の除雪アルバイトで資金を補填するという体力的に厳しい生活を送っていた時期もありました。

体調を崩してしまっは元も子もないので、就農前の資金の確保はしっかりと、最低でも1年分の生活費・運転資金を確保してから就農することを強く勧めます。